



Let's go! クリスマスマーケット



スイス・クリスマスマーケット in マクハリ2025

千葉市の姉妹都市スイス・モントルー市の冬の風物詩クリスマスマーケットを幕張でも開催します。

スイスならではのクリスマスをお楽しみください！

日時 12月12日(金)14:00～20:00、13日(土)11:00～20:00、14日(日)11:00～19:00 荒天中止

会場 海浜幕張駅南口駅前広場、三井アウトレットパーク 幕張2階ステージ、ワールドビジネスガーデン

内容 ジャズ・アルプス民謡などのステージイベント、ワイン・ラクレットなどのスイス関連の飲食物やサステナブルなデザイングッズの販売、ワークショップ、サンタクロースとの記念撮影など



詳しくは、[クリスマスマーケット マクハリ](#)

問 クリスマスマーケット in マクハリ実行委員会
(窓口代行 (合同) リードエージェント)

☎304-5925 FAX304-5926

千葉みなとクリスマスマーケット2025

さんばしひろばでクリスマスマーケットを開催します。みなとでのクリスマスをお楽しみください！

大きなクリスマスツリーが登場し、夜にはイルミネーションが会場を彩ります。

日時 12月21日(日)11:00～18:00 荒天中止

会場 さんばしひろば (ケーズハーバー前)

内容 クリスマスグッズの物販店舗やキッチンカーが大集合します。

地元ミュージシャンによるステージパフォーマンス、千葉港内を観覧する周遊クルーズへの乗船、千葉海上保安部の巡視艇の船内見学会など



詳しくは、[千葉みなとクリスマスマーケット](#)

問 千葉市みなと活性化協議会 (まちづくり課内)

☎245-5348 FAX245-5627



学芸員が選ぶ

今月のイッピン

田中一村『仁戸名蒼天』

1960(昭和35年)頃 個人蔵(千葉市美術館寄託) ©2025 Hiroshi Niiyama

田中一村(1908-77)は生前は無名の存在でしたが、作品とその生きざまに魅了された人々により没後に顕彰の動きが生まれ、テレビ番組の紹介で全国に知られるようになった日本画家です。終焉の地となった奄美大島での制作が有名ですが、千葉市の千葉寺町には1938年から58年までの20年を過ごし、周囲の人々からの支援も受けながら絵で生きる暮らしを営みました。

広い青空と光がふりそそぐ木立の表情が印象的な本作は、奄美から一時千葉に帰った一村が仮住まいと画室を提供された、国立千葉療養所の所長官舎からの眺めとされています。その後の奄美時代の作品への変遷も予感させる、画風展開上でも重要で、魅力的な作品です。千葉市美術館では2010年に大規模個展「田中一村 新たな全貌」を開催したことをきっかけに、縁ある多くの所蔵者の方から作品や資料をご寄贈、ご寄託いただきました。

「千葉美術散歩」では本作を含む千葉時代の一村作品を20点以上展示するほか、12月2日(火)～2月1日(日)には常設展示室にて奄美時代の代表作『アダンの海辺』もご紹介いたしますので、この機会にぜひご覧ください。

問 市美術館 ☎221-2311 FAX221-2316



開館30周年記念展「千葉美術散歩」(1/8末まで)展示中です。



広報 磯野

千葉開府

900年への道



十三. 躍動感ある郷土の変遷を体感しよう

11月8日に郷土博物館がリニューアルオープンしました。

千葉氏をはじめとする郷土の歴史を楽しみながら学べる拠点として「陸と海・人とモノを結ぶ『千葉』」をテーマに、郷土千葉の「躍動感のある変遷」を体感できる施設になっています。

入館後はエレベーターで一気に5階へ。過去と現在の千葉市が一覧出来るフロアがあります。その後、階段を下って行くと、原始・古代、中世、近世そして近現代のフロアがあり、郷土の歴史を通史でたどることができます。

千葉のルーツを示す「木簡象徴展示」、千葉氏のことろがまるわかり「千葉氏シアター」、江戸と千葉を結びつけた「4分の1スケール五大力船模型」、資料の詳しい説明や記念撮影が楽しめる「千葉介ナビ」など、見どころや楽しみが満載です。

どのようにして千葉のまちが開かれたのか、千葉の都市としての礎を築いた千葉氏とはどういう一族だったのか、どのような変遷を遂げて今の千葉ができたのか…

子どもから大人まで誰もが楽しめる体験展示や映像を通して、見たり・聞いたり・触れたり・遊びながら郷土の歴史を知ることができます。

千葉開府900年となる2026年を目前に、郷土の歩みを振り返り、これからの千葉を考えるきっかけとして、ぜひ新しくなった博物館にお越しください。

